

別記様式

会議結果報告書

令和5年7月21日

会議の名称	志木第二中学校区義務教育学校開校準備委員会（第3回）
開催日時	令和5年6月15日（木）午後1時30分～午後3時20分
開催場所	志木市役所2階 中会議室2-2
出席委員	柚木委員長、船平副委員長、松本委員、青木委員、磯委員、 小暮委員、富増委員、工藤委員、三杉委員、臼田委員 (計10人)
欠席委員	なし (計0人)
説明員職氏名	原田学校教育課参与 川瀬学校教育課指導主事 (計2人)
議題	● 志木第二中学校区義務教育学校校名案の選定について ● その他 (志木第二中学校区における義務教育学校の校舎活用について)
結果	別紙、審議内容の記録のとおり
事務局職員	今野教育政策部長、島村教育政策部次長兼学校教育課長、 成田教育政策部参事兼教育総務課長、 安原小中一貫教育学びプロジェクトコーディネーター、 川瀬学校教育課指導主事、三好学校教育課指導主事、 原田学校教育課参与、亀和田学校教育課主査

審議内容の記録（審議経過、結論等）

会議の開始前に会議の公開及び傍聴者の有無について確認を行った。

→傍聴希望者あり 5名

1 開会

2 議題

● 志木第二中学校区義務教育学校校名案の選定について

事務局から説明

4月に実施した志木第二中学校区義務教育学校校名案募集について、115件の校名案の募集があった。この中から各委員、第1候補から第3候補まで3つの候補を選考していただいた。結果として24件の校名案に絞り込んだところである。

今後の選定方法について委員の皆様で協議しながら決めていきたい。

【以下質疑】

(委員長)

委員の皆さんがそれぞれ選考いただいた校名案をホワイトボードに書き出した。複数票となっているものは、4件の校名案でその他は単票となるが、今後、絞り込んでいくにあたり、アイデアはあるか。

(委員)

第1、第2候補が10件で、第3候補が8件という結果になっているが、本来30件あるはずだが、第2候補までの選考の方がいたということか。

(事務局)

その通りである。

(委員)

選考する際の方法として、候補別に配分をつけて点数化する方法やそれぞれの名称を確認しながら決めていく方法などがある。個人的には、義務教育学校という言葉は小学校低学年には難しい表現であると思う。

(委員長)

選考するにあたって重視した視点やコンセプトなど、各々異なると思うのでそういう点を聞かせてほしい。

(委員)

今日の会議ではどこまで絞り込んでいく予定か。

類似の校名案も多くあり、名称として既に使用されていることを想起させるものも多くあるのではないか。

(事務局)

本日は第1次選考ということで、事務局としては第1候補から第3候補の中から複数票となっている7件の校名案を第1次選考の結果とし、事務局で一度、同名称施設の確認調査を行ったうえで、次回の開校準備委員会で、改めて確認調査の結果を踏まえ、委員から御意見をいただき、選考をしていきたいと考えている。

(委員)

志木や柳瀬といった地域に関するキーワードが入っているものが多い印象である。

(委員)

複数票の校名案で選考してしまうと柳瀬というワードのものが多く残る。

第1次選考の段階で志木というワードが落選してしまうことはあまりよくないと思う。

(委員)

今回応募のあった校名案には同じキーワードのものがある。しかし、ひらがな、であったり漢字であったりと書き方が異なっている。また、キーワードの部分は良いと思える校名案もあるため、キーワード部分と学園や義務教育学校などの部分について別々に組み合わせてもよいのか。それとも、基本的には応募された校名案をそのまま使用する必要があるのか。

(事務局)

今回の募集要項では、応募いただいた校名案に修正を加えることについての記

載はないため、基本的には応募のあった校名案の中から選考していただくことになる。

(委員)

組み合わせたいということではないが、複数の校名案を組み合わせることができたらもっと良い名称になるのではないか。

(委員)

個人的にはアレンジを加えた方が良いと思った。

ちなみに、今日、いくつかの校名案を選定後、これを踏まえて2次募集的なことは検討しているのか。

(事務局)

現時点では、2次募集については検討していない。

今回の校名案募集は、市内在住、在勤、在学の方を対象に広く募集した。さらに、志木第二中学校区の児童生徒については学校を通じての募集をしたところである。結果として115件の応募をいただいております、新たな募集ということは現時点では考えてはいない。

(委員)

新たに募集しなくていいが、開校準備委員会で選考した複数の校名案、例えば、3～4案を改めて市民に選考をかけるなどの想定はないのか。

(委員)

校名というのはすごく大事なものであり、1回決めたら変更はできないものである。募集した時点では、義務教育学校がどういった形になるかわからない状況の中で、応募者も自分の身近にある言葉や印象にある言葉などを使用して応募している気がした。まずは、複数票のあったものを中心に、事務局で他で使用されている状況でないか調査していただきたい。

調査する中で、既に使用されている校名案が多くあるようであれば、2次募集をしなくてはいけないかもしれない。

義務教育学校がどうなるかある程度はつきりしてきて、イメージができるとまた全然違う案が出てくるかもしれない。それを踏まえてまた委員の中で意見を出

し合えば良いと思う。

(事務局)

今回の校名案募集要項では、「応募していただいた校名案の中から開校準備委員会で校名候補を選定する」と謳っており、アンケートなどを行うことは難しいと考えている。しかし、色々な考えがあると思うので、本日の第1次選考の段階では、複数の委員が選考された7件の校名案を第1次選考結果と決めていただき、事務局で確認調査を実施したい。

そのうえで次回の開校準備委員会で、改めて意見をお伺いしながら絞り込んでいきたいと考えている。

(委員)

複数票のあった7件の校名案に今回で絞ってしまうことは反対である。

せめて第1候補をすべて残すことや、点数制にして選考する方が良いのではないかと。10候補くらいは残したいと考える。また、先ほど話があったように、義務教育学校なのか、小中学校なのか、学園なのかなど、そこだけでも議論できるのではないかと。

(委員)

今回、校名案を3つ選考する際に、順番という点に重きはおかず、3つの候補という点で選んでいる。本日、各委員が選考した校名案すべてを第1次選考結果とし、確認調査をしたうえで、改めて使用可能である校名案の中から議論することはどうか。

(委員)

選考する際の基準について、例えば、地名を入れるべきか、地域の特色を入れるべきかなど、共通理解を図ることは必要ではないかと。

個人的には、地名を入れたいと考えている。

(委員)

第1次選考では絞りすぎない方が良いのではないかと。また、学園、義務教育学校などについては少し意見を出し合った方が良くと思う。

(委員)

単純な多数決で決めるべきではないと思う。

応募していただいた方の思いもあるので、この点も確認したうえで多数決ではなく、地名や伝統など重視する部分を共通理解したい。

(委員)

応募要項では、「応募数の多い校名で必ずしも決まるというわけではない」と書いてあるものの、複数票があったものは残したうえで検討した方が良いのではないかな。

(委員長)

先ほど、意見があった応募いただいた校名案をそのまま使うか、開校準備委員会で少しアレンジを加え、より良いものにしていくかという点はどうか。

(事務局)

応募要項に修正する条件は付けていないので、基本的には、応募いただいた校名案から選考していく流れとなる。

(委員)

現状は、応募要項どおりで良いのではないかな。選考していく中で、必要性が出てきたらルールを変更できるか検討する。

(委員)

応募要項の中で、校名案が変更されることを最初に明記してしまうと応募しても自分の意見が曲げられてしまうのではないかなという気持ちになると思う。応募された校名案で決めていくのは当然だと思う。しかし、選考を進める過程で、アレンジした方が絶対に良い校名案となる場合は、アレンジ方が良いと思う。

その際は、話し合いの中で決めていくことが良いのではないかな。

(委員長)

現時点では絞り込まないで、次回の開校準備委員会では校名案を確認するとともに、少し類型化していく。選考過程の中で、応募された校名案をそのまま使用するのではなく、応募者のアイデアを生かしつつ、より良い校名案にできる可能

性があればその点についても検討していく。

(事務局)

本日は、115件の応募から24件の校名案に絞り込んだということで、事務局でこの24件の校名案について確認調査を行う。

(委員長)

地域や特色とか選考するうえでの観点についてはどうか。

(委員)

地名という意味では柳瀬川、桜というイメージはあるが、学区としては志木駅の方まであり、意識が離れてしまうという考えもあるので、もう少し大きな括りで「志木」という地名の方が良いのではないかと思う。

(委員)

志木第二中学校区の学区を考えたときに、志木駅に近い児童生徒もいれば、柳瀬川に近い児童生徒もいる。だから、そういった観点からも、まずは今回の24件の校名案を確認調査して、この中で使用できる校名案がはっきりしてから2次選考に進んだ方が良いと思う。

(委員)

街のイメージが連想できるような校名が良いとは思う。そうすると、志木、柳瀬川というワードを入れるとなると、アレンジが必要となってくる。

(委員)

今までの志木市立の小・中学校は、最初に「志木」から始まって比較的簡単ルールで名付けられている。「志木」という言葉が残った方が、伝統が残るという意味でも、最初に「志木」がつく方が良いのではないかと個人的には思う。

ただ、志木中学校区は同じ志木地区となるので少し気になるころではあるので、地名を活かしつつ、特色が出る校名案としていきたい。

(事務局)

現時点において、学校名が決定している中学校区はないが、他の中学校区につ

いては、小中一貫型小・中学校で進めている。現在の学校名は残しつつ、通称名としての名称を決めていくことになる。

(委員長)

まずは、この24件の校名案の中から校名案を選考することとし、校名の調査、選考過程の中で類似の校名が出てきたら、その際に、またこの開校準備委員会で検討していく。

●その他

事務局より、志木第二中学校区における義務教育学校の校舎活用方法について、改めて2つの案を提示し、説明した。

- ・1案：志木第四小校舎及び志木第二中校舎を日常の教育活動の場として使用
志木第二小校舎は特別教室やPTA活動室などに使用
- ・2案：志木第二小校舎及び志木第二中校舎を日常の教育活動の場として使用
志木第四小校舎は、部活動スペースなど児童生徒のための有効なスペースとしての活用を検討。

(委員)

志木第二小校舎と志木第二中校舎の昇降口が近く、柳瀬川方面、志木方面の両方から同じ場所にある正門に登校できる。また、あいさつ運動も両校でやっているため、2案は、1つの学校として一体感を感じられると思う。

他にも、志木第二小校舎には音楽室、理科室が2か所あるため、志木第二中校舎にいる上級生が志木第二小校舎の特別教室を使用する際に、下級生と日常的に触れ合える機会も増え、義務教育学校としての効果が得られるのではないかと思う。

(委員)

校舎間をつなぐ通路を検討するとのことであったが、前回の説明だと通路設置は難しいという説明であった。通路設置の可能性はあるのか。

(事務局)

校舎間を結ぶ通路については、一体的な学校運営を行うためには非常に重要なものであると考えている。志木第二小校舎、志木第二中校舎を一体化した形にす

ることについては大切なことであると認識しているので、通路の設置について全くないということではない。

(委員)

法律的には、道路上に通路を設置することは可能であるのか。

(事務局)

他市町村の事例では、道路の上に通路を設置している事例もある。設置に時間は要することになるが、関係機関等と調整していきたい。

(委員長)

志木第二小校舎及び志木第二中校舎の間にある道路は、人・自転車の専用道路となっていて、自動車が通行できない。高さなどの一定の制限はあるが、設置は不可能ではない。

(委員)

前回案では、志木第二中校舎と志木第四小校舎を主に使用し、特別教室や関連施設として志木第二小校舎を活用していくとのことであったため、あくまで3つの校舎を使うと認識している。

今回の説明では、志木第二小校舎と志木第二中校舎を活用するとの説明であったが、志木第四小校舎は使用しないのか。また、使用する場合は、その活用方法について伺いたい。

(事務局)

志木第二小校舎と志木第二中校舎を活動の拠点として使用する場合、特別教室まで2つの校舎の中で対応できると考えており、それ以外に必要となる場所として、例えば、PTA会議室や部活動などについて、志木第四小校舎を使用することを想定している。

(委員)

志木第四小校舎が3つの校舎では一番きれいだと思う。部室やPTA会議室は古くていいと思う。PTAの活動は会議室での対面会議ではなく、オンラインを活用した活動も可能である。

前回は1案、今回は新たに2案が示された。この2案は、通路で結ぶということであり、時間を要することだが、具体的にどのくらい時間を要するのか、また、これから2つの案について、開校準備委員会でも議論を進めていけるのか明確にしてほしい。

(事務局)

施設整備の観点から見ると、計画、設計、工事と3つのハードルがあり、年単位での時間がかかると考えている。志木第二小校舎、志木第二中校舎で日常の教育活動、特別教室までと説明したが、現段階では事務局からの提案であることから、まだ明確には決まっていない状況である。

施設の活用については、例として2つの案をお示ししたので、開校準備委員会で皆様の御意見もいただきながら、決めていきたいと考えている。

(委員)

志木第四小校舎には、通級指導教室や不登校になりがちな児童生徒の居場所となる適応指導教室の設置も考えてほしい。

(委員)

3つの校舎を使うことは間違いなく、施設の管理的なコストは変わらないと思う。現在は、門の施錠等も学校間で区切られているが、志木第二小校舎と志木第二中校舎に通路等が可能であれば、管理的部分は担保できると思う。

志木第四小校舎は確かに校舎が離れているので、現状では一体的とはいえない状況である。いずれの案にしても、志木第四小校舎と志木第二中校舎の動線の検討も大事であると感じる。例えば、もくせいは施設上つながっているが、複合施設と学校で別々に管理されている。

(委員長)

志木第四小と志木第二中の動線についての方策も考えていかなければならない。

(委員)

どちらの案にしても、校舎間の移動が生じることから、子ども達の安全が確保されること、教員が子ども達を一体感を持って育成できることが大切である。し

かしながら、高校や大学に行くと校舎が分かれることも多いので、移動が生じるということを経験として一体感が出せないということはないと思う。

(委員)

現在、3つの校舎で成り立っている子ども達の日常の教育活動の場を2つの校舎にすると、子どもたちの日常の生活に支障が出ないのか。例えば、トイレの数などが考えられる。

また、2案だと志木第四小校舎は部室などに活用するとのことだが、教員が常駐しない状況となると放課後の管理はどうなるのか。

(委員長)

現時点では例示の段階であるため、今後検討が必要な事項となる。

(委員)

部活動は今まで、校舎内で実施すると思っていたが、運動場や体育館などを有効活用できることに気づいた。ただ、活用の範囲が広がるということは、施錠などの管理という側面が必要となる。生徒にそういったことを教育の一つとして関わらせることも良いと思う。

また、2案では志木第四小校舎が少し手薄になってしまうのではないかと懸念はある。

(委員)

安全面の確保は重要であると思う。

通路があれば、移動の安全性が確保されるため、近ければ近いほど教員の目も行き届きやすいと思う。

(委員)

子どもたちが近い拠点で生活するというのが、義務教育の効果を高める上では非常に大事なことであると思う。志木第二小校舎と志木第二中校舎の距離感は良いと思う。

(委員)

志木第二小校舎と志木第二中校舎を日常の教育活動の場として活用した方が動

線的には良いが、志木第四小校舎の管理というところは、具体的に考えていく必要がある。

(委員)

一番優先することは、子ども達の教育活動が行えるようにすることだと思う。そういった部分も含めて検証を進めていくことが必要である。また、1案、2案のどちらが良いかということはこの場で答えることは難しいが、スペース的なことを考えると2案の方が良いと思う。あと条件として、校舎間が結ばれるということがあれば良いと思う。

(委員)

志木第二小校舎と志木第二中校舎を活用した方が日常的な活動がしやすいということはわかるが、現状、志木第四小に通学している児童もいるので、志木第四小校舎が離れているからという言葉は単に使うのではなく、表現は少し気を付けながら議論する必要がある。

(委員長)

各学校の思いは大切にしながら進めていくべきである。

(委員)

校舎の学年配置はどうなっているか。

(事務局)

学年の配置は、あくまで現時点での案ではあるが、2案では志木第二小校舎に1年から5年生、志木第二中校舎に6年から9年生を案として考えている。

(委員)

1案が出たときには、志木第二小の保護者がいやな思いをし、今回出た2案では志木第四小の保護者がおそらく同じような気持ちになると思うが、今回、2つ目の案が出たということは、他の案もあるのか。

(事務局)

事務局では、他の活用案についても考えたところであるが、義務教育学校とし

て、1年生から9年生までが交流を深めながらその効果を最大限に発揮するためには、3つの校舎に分かれて教育活動を行うよりも、2つの校舎を活用していくことが、より一体感を出せるのではないかと考えたところである。

(委員)

可能性としては低いということは認識しているが、最大限教育効果を生み出せると考えられる一体的な1つの校舎を将来的に建設することは考えられるのか。こういった考えの保護者はたくさんいると思う。

(事務局)

3つの校舎は、長寿命化計画に基づいて大規模改修工事を行い、施設の長寿命化が図れている建物である。そのため、長寿命化を図ってきた建物を今すぐに建替えるということは難しいと考えている。

(委員)

長寿命化で耐用年数はどのくらいになっているのか。

(事務局)

通常のコンクリート構造物でいうと耐用年数は65年になるが、最大80年まで使用するように対策することである。それぞれの建物の寿命は少しずつ異なっているため、今後も総合的に考えていかななくてはならないと考えている。

(委員)

志木第二中校舎は和式のトイレが多く残っており、空調がついていない教室もあるが、具体的な対応はあるのか。

(事務局)

以前、大規模改修工事を行った際は、教育上の観点からも和式のトイレを残しておいた方が良いという議論があった。学校と調整しながら時代の変化に即した学校施設となるよう検討していく。

(委員長)

校舎をどう活用するかの方角性によって、教育活動の内容も少なからず関わっ

てくる。2案の方が良いという意見もあったが他の委員はどうか。

(委員)

2案は、教室間の移動は少なくて済むのか。

(事務局)

移動の面については2案の方が少なくなる。

また、特別教室への移動という点も移動距離も含めて容易になると考える。

日常的な交流を時間、距離、空間、交流っていう4つの視点で考えた際には、2案の方が教育効果を生み出せると考えている。

(委員)

2つ校舎の分け方として1年生から5年生、6年生から9年生という案があったが、この配置はどういった視点で検討されたのか。以前の会議でも少し話があったが、個人的には4-3-2という学年の区切りは崩さない方が良いのではないかと思う。

(事務局)

現時点では案であるが、志木第二小校舎に1年生から5年生、志木第二中校舎に6年生から9年生という日常の教育活動の場を示させていただいたところであり、子ども達が学校生活を行ううえで、日常的な安全を確保できるということを最初に考えたところである。

また、教育効果の観点でいうと、義務教育9年間で1年生から9年生までを継続して、子どもたちの成長を見守れる学年段階の区切りを今後検討していくことから、校舎の使い方によって、学年段階の区切りが決まるかというところではない。

(委員長)

校舎が仮に通路でつながれば、基本的に1つの校舎と言える。一体的な校舎として、現在のように学年間を階段でつなぐことに加え、新たに通路でつながるという考え方ができる。

(委員)

今は小・中学校が別々で職員室も分かれているが、通路でつなぐことによって1つの校舎としての考え方となるのか、そこは分散した方が良いのかということは今後も考えていくのか。

(委員長)

例えば今回の例として、志木第二小校舎に1年生から5年生だとしたら、一部教科担任制も導入する部分があるかもしれないが、学級担任制を主とすると教員の拠点も志木第二小校舎になる可能性はある。ただ、義務教育学校として、1つの学校という一体感を出すためには、教員同士が集まれて、交流できる場も必要である。まずは、大枠を決めて、それからその活用の議論が始まる。

(委員)

去年から学校で具体的な推進計画の検討に入っていると思うが、施設の活用方法が変わることによって、推進計画も変わるのではないか。あと授業の時間も45分なのか50分なのかで変わってくる。

施設の活用案が変わることによって、PTAとしてもどう対応してよいか悩むし、おそらく保護者もまた驚くのではないかな。なるべく早めに周知してほしい。

(委員)

1案の時には、志木第二中校舎に5年生から9年生ということであったと思うが、2案でも志木第二中校舎を使用することは変わらないのだから、2案でも志木第二中校舎に5年生から9年生ということになぜしないのか。

(事務局)

2案でも志木第二中に5年生から9年生とすることは可能であるが、日常的な学校生活の中で特別教室や特別支援教育、児童生徒同士の交流を考えたときに、志木第四小校舎よりも志木第二小校舎の方が教室数に余裕が生まれ、教室以外の共有部分であるトイレ数なども有効に使える。

なお、校舎の有効な使い方ができるのではないかと考えて案として提示したところであるが、学年段階の区切りは、施設の使い方としての学年配置とは別に、4-3-2制などを考えていくことは可能である。

(委員)

いろんな観点があつて空間的にも交流の面でも1年生から5年生、6年生から9年生で校舎を分けた方が、子供たちが過ごしやすいということはわかった。

ただ、教育の観点からみるとやはり、学年段階の区切りを4-3-2制とする場合に、通路で校舎がつながったとしても、建物自体が別であれば特に3の部分の5年生の意識という点を考えると子ども主体ではないのかなと感じる。

(事務局)

これからの計画になるが、例えば5年生は6年生と近い位置に配置するなどの対応もできると思う。いずれにしても、様々な指導の観点から4-3-2制、5-4制などの学年段階の区切りを考えていく。

(委員)

今まで4-3-2制を前提に議論してきたこともあるので、5-4制の良さなどは現時点ではわからない。

(事務局)

学年段階の区切りをどうするかはまだ決まっていないので、これから施設の配置を含めていろいろな可能性がある。

(委員)

子どもたちが毎日安心安全に通え、学びの場としての使い勝手が良いことが一番であることは間違いないと思う。教育の観点も同様に、子どもたちにとって一番良い方法を検討してもらいたい。

(委員長)

校舎の活用の関係についてもいろいろな意見をいただいたので、今後検討を進めていく中で参考とさせていただきたい。また、意見の中で校舎の活用方法については早期に決めていかないと次のステップに移ることができないのではという意見もありましたので、教育委員会としてもしっかりと進めていく。

以上